

4. 手掌紅斑 palmar erythema

さまざまな原因によって生じる手掌(場合によっては足底も) のびまん性紅斑である. 血中エストロゲン上昇(とくに妊娠や 肝機能障害)に関連して生じることが多い. 膠原病(SLE, 皮 膚筋炎, 関節リウマチなど)や慢性肺疾患などでもみられる. まれに健常人においても生じる

5. 新生児中毒性紅斑 toxic erythema of the newborn, erythema toxicum neonatorum

正常な新生児の約半数に生じる. 紅斑および直径 1~2 mm の小膿疱が散在ないし多発する(図 9.5). 病理組織学的には好酸球の著明な表皮内, 真皮上層への浸潤をみる. 数日~数週間以内に自然消退する.

- **► 結節性紅斑→** 18 章 p.354 参照.
- **硬結性紅斑→** 18 章 p.355 参照.



図 9.5 新生児中毒性紅斑 (toxic erythema of the newborn)

B. 環状紅斑 annular erythema

小紅斑として初発し、遠心性に拡大する一方で中心部が消退し、その結果、環状の紅斑を形成する。このような皮疹の出現が主体の疾患の総称である。環状を呈する他の疾患(乾癬、蕁麻疹、体部白癬など)の場合は環状紅斑とはいわない。感染症や内臓悪性腫瘍、膠原病、薬剤などを背景として発症することがある。原疾患や臨床像の違いにより、表 9.5 のように分類されている。膠原病を背景とする環状紅斑は 12 章を参照。

1. 遠心性環状紅斑

erythema annulare centrifugum; EAC

同義語:Darier 遠心性環状紅斑

症状

壮年の男女に好発する.体幹部や四肢の中枢側に,直径2 cm 大くらいの浸潤を伴う浮腫性紅斑が生じ,次第に周囲へ遠心性に拡大する.中心部は退色し,辺縁は堤防状に隆起し,輪状ないし不規則な環状紅斑となる(図9.6).辺縁にわずかな鱗屑を付着することもある.皮疹は多発,融合して連圏状あるいは地図状となることもある.拡大は2週間前後続き,数週



図 9.6① 遠心性環状紅斑 (erythema annulare centrifugum)